



①

この時、私の脳裏には、生前母が言い続けた、「仕事は早くても、ガサツであつたり、ザマクであつてはいけない」という言葉が浮かんでいたのである。



③



②



冬季展 圓鰐勝三

手仕事 の記憶

2023 12.12 (火) >> 2024 3.24 (日)



④

①彫刻道具（ノミ）②版木 ③ねこ（ブローチ）④イス

開館時間／午前9時から午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/29～1/3）

入館料／大人420円（340円）高校生310円（250円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

中学生以下・70歳以上（要年齢確認）、各種手帳をお持ちの方（スマートフォンアプリ「ミライロID」も利用可能）は無料



圓鰐勝三彫刻美術館

ENTSUBA KATSUZO SCULPTURE MUSEUM

〒722-0353 広島県尾道市御調町高尾220番地

TEL.(0848)76-2888 FAX.(0848)77-0071

HPはこちらから /



【交通機関】

[JR・バス利用]

JR 尾道駅、JR 新尾道駅から、中国バス「甲山」行きに乗車、「道の駅クロスロードみつぎ」下車 タクシーで10分

[車利用]

東・北からは、尾道自動車道・尾道北IC 経由、西からは山陽自動車道・三原久井IC 経由 国道486号線 経由で御調町へ、国道184号線 経由で府中分かれ交差点を左折して約5分

手仕事の記憶

圓鰐勝三が彫り物を始めたのは小学校4年生の時でした。兄の真似をしてハンコを彫ってみると学校の先生から大変褒められ、それをきっかけに彫り物の面白さを見出します。16歳の頃に京都に修業に出て、仏師である石割秀光のもとで神社仏閣の装飾を作りながら修業を始める圓鰐ですが、なかなかうまくいかず兄弟子たちに厳しい言葉が投げかけられる日々が続きます。そんな中で幼少期の頃に母親によく言われていた「仕事は早くても、ガサツであったり、ザマクであってはいけない」という言葉を思い出し、じっと我慢して仕事を続けた結果、修業二年目にして兄弟子たちとそんな色のない仕事が出来ようになったと語っています。

圓鰐の作品からは、発想に対する自由性や様々な素材を組み合わせる表現の工夫が見られますが、その表現力を支えているのはまさしく修業時代に思い出した母の言葉、堅実に仕事をこなす力や長年の制作によって培われた技術であると言え、ノミや彫刻刀の跡を見ても大変細やかで丁寧な仕事ぶりがうかがえます。

今回の冬季展「圓鰐勝三 手仕事の記憶」では圓鰐勝三の作品をはじめ、実際に使用していた道具や年賀状制作に用いた版木、帯留めなどの小作品もご紹介します。圓鰐勝三の作品に対して真摯に向き合う姿を感じていただければ幸いです。



①



②



③



④



⑤

- ①友好 昭和 42(1967) 年
- ②伝説の鳥 平成 2(1990) 年
- ③面と女 昭和 55(1980) 年
- ④横臥 制作年不詳
- ⑤果実器 昭和 49(1974) 年

会期中の休憩室での展示

御調中学校デッサン展

御調中学校1年生が圓鰐勝三の彫刻作品をデッサンしました。
力作ぞろいのデッサンをお楽しみください。

会期 2023年12月12日(火)～2024年3月3日(日)

場所 圓鰐勝三彫刻美術館 休憩室

